

## 令和2年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会（書面議決）まとめ

### 【意見】

#### 委員A

- ・令和元年度の事業報告書を拝見しました。極めて順調に計画が遂行され、多くの区民、学校に利用されたことがエビデンスと共に提示されています。学芸員の皆様、館長以下館運営を支える事務の皆様に敬意を表します。
- ・新型コロナ感染拡大が未だ収束せず、令和2年度の事業計画についても大きな影響を受けると考えられます。

その中で、学芸員によるミュージアムグッズの企画・開発が行われ、しかもそれらがヒットし、区民をはじめ利用者の方々に親しみと楽しみを与えていることが、とても素晴らしいことと存じます。

- ・もう1点SNSを活用した情報発信も、一つ一つのコンテンツのクオリティが高く、「北区飛鳥山博物館ちゃんねる」全国レベルで見ても引けを取らない内容です。ウィズコロナ時代の飛鳥山の強みとして、より一層区民に親しまれるでしょう。高く評価します。素晴らしいと思います。

#### 委員B

全てはコロナ流行次第となりました。

#### 委員C

既に当委員会としては終了済の案件ですが、令和2年度からの新規委員の方もおられるので、蛇足ながら、令和元年度事業報告についてコメントします。

当館事業は、質量共に、区博として日本一であり、またこの規模の博物館としては世界一の事業内容であることは間違いありません、が、特に当館の特徴（ユニークネス）として特筆したいのは、国際化（多言語資料）・博物館と福祉との連携活動としての回想法の導入・新規視点としての対話型鑑賞法・そして、心も体も丸ごと参加型の「なりきり」講座・そして、事業というより博物館そのものを理解してもらおうという「はくぶつかん探検隊」などです。何より、こうした活動を支えておられる学芸員の方々の質の高さと、その質の高さを継続的に維持しておられる館の運営方針の堅固さ、を高く評価したいと思います。

さて、令和2年度の事業計画については、コロナ感染の推移状況により大きく変更せざるを得ない事も予想されます。（特に対面式や参加型の事業について）。しかし、この機に、コロナ渦中およびコロナ後（日常的に感染症のある状態）の博物館のあり方と（手洗いや検温など）施設側の方策を、来館者のご意見を聞きながら決定してゆくことが大切だと思います。そして、この過程をHPも含め、館内掲示などで、対外的に、常に、周知しつつ、次の新たな感染症に対しても迎え撃てるよう意識と方法論を更に version up して

ゆくことが大切だと思います。「安心して来館できる館」を目指して。

既に来館者の好奇心の窓を開いて、楽しい博物館の世界へと誘うノウハウと内容を蓄えられた館ですので、新たな局面における博物館活動の良好モデルとしての一歩も、令和2年度に示していただきたいと心から望んでおります。

#### 委員D

新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながらの開館、事業推進となりご苦勞も多いことと思いますが、よろしく願いいたします。

小・中学校でも社会科を中心とした、渋沢栄一の副読本作りを今年度中に進めなければなりません。昨年度同様ご協力をお願いすることとなり、お忙しい中お手数をおかけいたしますが、重ねてお願い申し上げます。

#### 委員E

今年度より、よろしく願いいたします。

#### 委員F

23区の高齢化先進地域である北区で常設展示、高齢者施設への訪問の両方で、道具を通して昔の生活を回想する企画はとても良い方法だと思う。昔使った道具には皆それぞれの思い出があり、道具（用具）を見たり、触れたりすることで、当時の記憶が蘇り、グループで話し合えば話が弾み、高齢者の方に喜ばれると思います。コロナの問題があるので今は活動が難しいが、デイケアの施設への訪問は積極的に進めてもらいたい。用具ばかりでなく少年少女雑誌等があっても良いのではないか。一般講座の数が多くて驚いている。学芸員の負担が大変ではないのか。予算の関係もあると思うが、外部講師の活用をもっと考えても良いのではないか。区内で人材が見つけられれば更に良いと思う。

#### 委員G

来年2021年は、太平洋戦争開戦から80年、5年後は敗戦から80年です。ここ北区には当時の戦争に関する史跡が多く保存されています。戦争を実体験してきた世代も残りわずかとなり、戦争の本当の恐ろしさを知らない世代がほとんどの世の中、平和の大切さを発信する企画があっても良さそうな感じがいたします。